

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572505931		
法人名	医療法人薫風会		
事業所名	認知症老人グループホーム元瀧荘		
所在地	秋田県にかほ市象潟町小滝字麻針堰16		
自己評価作成日	平成27年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>鳥海国定公園内に位置し、風光明媚な環境の入居者一人一人の尊厳を大切に、「その人らしさ」を尊重した共同生活介護を実践している。</p> <p>本人の要望を聞くことを最も大切に、食事、行事等出来る限り実現するよう努力している。</p> <p>同一敷地内には象潟病院(精神科)、介護老人保健施設、居宅支援事業所があり、各々専門職と協力、連携によりサービスの充実につながっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、鳥海山の象潟口に近く、風光明媚な場所に位置している。また、母体となる施設と隣接しており、互いに連携し、差別なく、人を平等に見ることを基本に据え、管理者と職員が「一視同人」という理念を共有しその実現に取り組んでいる。地域とは少し距離があるものの、運営推進会議を活用し、市町村との連携を図ると共に家族や地域の意見を取り入れ事業所の活動に組み込むなど、管理者と職員が同じ考え、方向性を持ち取り組んでいる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ代表者、管理者が中心となり事業所理念の実践に取り組んでいる。	法人と管理者は密接に連携して、法人の理念の実践に努めている。法人の理念の「一視同人」を踏まえて、利用者一人ひとりの立場、見方、考え方を大切に、個別の対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地から離れているため個々の交流は少ないが、買い物と一緒に出かけたり等、地域の雰囲気を感じてもらっている。 法人の行事や地域ボランティアとの交流を通して地域の繋がりを大切にしている。	事業所が市街地から離れているものの地域密着型の施設であることを法人と管理者は認識しており、運営推進委員会を活用し、家族や行政からの提案や意見を取り入れ、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	定期的に広報を発行。 買い物に利用者同伴、なじみの美容室に行く等地域と係わる機会を多く持つ。 地域行事で子供たちに来てもらっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は偶数月に行っている。 避難訓練にも参加いただき消防署職員も交え反省会も実施。 今年は10月予定。	定期的に開催されている。利用者本人や家族、行政職員、法人、管理者、職員がメンバーとなり外部評価報告や入居者情報の報告、行事予定などを話し合っている。また、家族によるカラオケショーや行政からのボランティアの情報を活用し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政職の参加を依頼。 県と地域グループホーム協議会に参加し、情報交換や研修を開催している。 同一法人の居宅介護支援センターとの連携し情報提供を行っている。	運営推進会議や行政による協議会に参加し、認知症研修会やオレンジカフェ等の参加協力を行っている。また、入居状況等についても情報交換し、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束の必要ないケアを実践している。	マニュアルが整備されている他、虐待等の研修会に参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。以前に徘徊があったため、生命 safety を考慮し、声をかければ、自由に外に出れることを伝えて、玄関に施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加。参加職員から伝達研修もおこなう。 「業務に追われ、やむを得ず、自覚のないまま」不適切なケアが無いよう注意喚起している。 職員同士お互い注意をはらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで事例は無いが、必要に応じて対応する。 管理者や職員は成年後見制度や権利擁護に関する研修会に参加し、個々の必要性を関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入居契約書を用い利用者及び家族に十分な説明を行い理解納得してもらった上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望及び苦情等の相談の仕組みについて重要事項説明書、入所契約書に明記している。運営推進会議や面会時等に家族から意見や要望を聞いている。	運営推進会議で外部評価報告を行い、利用者や家族の意見を述べやすいよう工夫している。出された意見は聞き入れるよう努め、実際に行事等に取り入れている。また、面会時には利用者や家族の個別の要望や意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を中心に毎日の申し送りで意見・要望を聞き検討している。 大きな課題については管理者を通し法人上部に伝える。	管理者を中心に、日々の申し送りや職員との会話の中で、設備の更新や取り替え等に耳を傾け、意見の反映に努めている。また、法人事務局長と管理者は密接に協力し合い、職員の研修会の希望や休みの調整などを行い、職員の見解の反映に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者及び職員と話す機会を設け、職場環境・条件等について考えている。必要に応じ別途時間を設け相談に応じている。法人全体でも様々な親睦の機会を設け、事業、職種間を超え交流を図り個々の抱え込みの無いよう努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会は平等に設け、伝達研修は必ず実施し全ての職員が情報を共有出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域グループホーム協議会に加入し、なるべく多くの職員に研修の機会を与え他事業所との交流をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては時間をかけ本人、家族の思いを聞き、少しでも多くの要望を取り入れ不安解消出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は人生の先輩」と尊厳をもって接している。 料理や季節行事等、職員が知らないわからない事は利用者に聞きながら共同で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族とは手紙等利用し、利用者の現状や生活状況を報告し情報を共有できるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活できる環境づくりに努めている。入居前に利用していたお店(床屋、美容院等)を希望に応じ利用できるよう支援している。	希望があれば入居前からの理美容店を利用している。また、馴染みの人や場所の関係維持に努めているが、入居者の平均年齢は88.6歳となり、入居前の馴染みの人や場所が少なくなっているとのことなので、ホームで新しい馴染みの関係を築く支援に期待する。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業、余暇時間に利用者の関係が円滑に出来るよう援助している。 利用者間の会話にも職員が気に掛けながら加入している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内(病院、介護老人保健施設、居宅支援事業所)で連携し、必要に応じて相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り利用者とはふれあい、会話、表情から要望などを把握できるよう努めている。	日々の日常的な会話や表情をとおして入居者の思いや要望の把握に努めている。入居者一人ひとりに思いや個性があるので、その把握に努めている。	入居者一人ひとりの暮らし方や思いを把握するために、生活歴や家族の思い等を把握するためのツールを活用し、より良い支援が出来るように期待する。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報をいただいている。 入居中も本人との会話や家族の面会時から情報を得ることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握しながら出来そうなことをみつけ、本人本位の生活を援助している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望を取り入れながら職員間でカンファレンスを行い介護計画をたてている。	本人や家族との面会時に、要望や生活の仕方について話し合い、それを踏まえて職員間でカンファレンスを行い、3ヶ月毎に現状に即した支援計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に残し、職員間で情報の共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政職員、民生委員また地域広報等から情報を得て、実践又は利用可能な行事・資源があれば積極的に活用していきたい。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族に意向を確認し希望を聞いている。 かかりつけ医や協力医療機関を受診する時は職員が支援している。	入居時に本人や家族の意向を確認し、希望に沿い支援している。当法人の協力病院やかかりつけ医を受診する際は職員が支援している。また、他医療機関受診に際しては、服薬等の情報を持参し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回契約看護師が訪問し、健康管理や医療的な支援を行っている。 契約看護師が不在の場合は併設介護老人保健施設医師、看護師と相談出来る体制となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院と連絡を取り情報交換を行う。家族と情報を共有し安心して治療出来るよう支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合の対応を入居時に説明し、不安を取り除くようにしている。ターミナルケアには対応していないが、併設の介護老人保健施設で対応可能。希望があれば紹介を行う。	重度化や終末期における事業所の指針を作成している。ターミナルケアが必要になった場合は、本人や家族と話し合い、希望があれば他の医療機関や介護老人保健施設への紹介を行う体制で取り組んでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを策定し、緊急時や急変時に職員が慌てることのないよう研修を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で災害時の対応を策定している。避難訓練を法人内で年6回(うち事業所2回)消防署立会いのもと行っている。訓練時は家族にも連絡し見学してもらっている。	法人全体で災害対策の取り組みを行っている。避難訓練は夜間を想定し実施している。運営推進会議を活用し消防署の協力や家族の訓練見学などを行い万全を期している。食糧の備蓄や停電時の備え等、法人全体での協力体制が整備されている。	ベランダの避難階段に不備があるので正常使用可能になるよう整備することに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場に立ち、利用者が傷つかぬよう気配りしながら対応している。各居室は個室で施錠可能。	管理者と職員は、職員間での入居者支援に関する会話に気を付け、介助方法や個人の尊厳を損ねる会話をしないよう常に注意を払っている。また、各居室は施錠が可能で、プライバシーの確保ができる設備となっている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望していることに耳を傾け食べたい物、行きたい所、手作業など希望を取り入れている。また表現出来ない、しづらい利用者には表情や態度から察するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者同士ソファ等で雑談している時はそこでお茶をしてもらうなど、その時々で自由に過ごしてもらっている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類のコーディネートや季節の衣類など職員と一緒に選び楽しんでいる。 外出の時などは特におしゃれをしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を工夫したり季節の物を取り入れたりし雑談しながら楽しんで作っている。手作り野菜をメニューに取り入れることも多い。調理、配膳、下膳等も出来る範囲で共同で行う。	日々の食事を楽しめるよう、職員と一緒に調理、配膳、下膳を行っている。また、行事食やバーベキュー、いも煮等の季節の食事会を行い、食事を楽しくできるように支援している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し職員全員が把握している。 その時々状況に応じて刻み食や代替え品を提供する等個別対応も行う。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の嗽、歯磨きの声掛けを行っている。 介助の必要な利用者には個別に対応している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、自尊心を損なわない様声掛け、誘導を行っている。	入居者に尿意や便意があることを大切に考え、本人の失禁状況を把握し、さりげない声かけや誘導により、排泄の失敗による負担がかからないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度に体を動かし、自然排便出来る様援助している。(朝に牛乳を飲む等) 便秘症の方には主治医の指示にて便秘薬を使用。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に応じ、週2～3回入浴している。	入居者の希望を優先し、入浴を楽しむように支援している。時には、仲の良い人同士で一緒に入浴するように工夫するなどの支援を行っている。入浴を好まない方には強制することなく、さりげない会話から入浴を促し対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間には決まりを設けず、個々の状況に応じ対応している。 眠れない時は話し相手となり安心して入眠できるよう援助している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬の内容を看護記録に添付して職員が薬の情報が得られるようにしている。 処方薬の変更などあればその都度職員間で伝達している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味、能力など把握して家事作業等利用者が楽しめる活動を支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、買い物、外食等に出掛け対応している。	入居者の外出希望が少ないので、近くのスーパー等買い物に行く際に声かけして外出するように促している。また、年2回の家族参加による大型バスでのバスレクを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、利用者から希望が無ければ事業所で金銭管理は行っていない。 自己管理出来る利用者は小銭を持参している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用できる。 個人負担であるが居室に電話回線を引くことも可能。 敷地内に郵便ポスト、切手販売所あり。 兄弟や子供と手紙のやり取り有り。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内にはソファ、テーブル、椅子を配置。その他和室スペースを設けている。 テーブルは昇降可能で利用者毎に調整可能。 廊下は吹き抜けで自然光が入り圧迫感がない作りである。	食堂を兼ねた居間には大きなベランダがあり明るく、みんなが集まりやすい共用の空間となっている。また、廊下の端にはソファが備えてあり、友達と語り合える場となっている。廊下も吹き抜けで自然の採光を取り入れ、心地良く過ごせるよう配慮されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブル、ソファを複数設置。和室スペース有り。晴天時は屋外テラスで過ごす事も可能。 各々思い思い過ごせる環境を提供している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の持ち込み品には特別な制限は設けておらず、使い慣れた日用品、馴染みの物を持ち込み安心して生活できる環境作りに努めている。	各居室にクローゼットが備え付けられており、居室が広々と使用できるように工夫されている。ベットや日用品は本人の希望に沿って持ち込みができ、それぞれの好みに応じた居室になっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人が分かるように「表示」、「置き場所」を工夫し混乱しないよう配慮している。		